



県勢5人入賞、8人決勝へ



「2」トナー少年男子500m順位決定戦。力強い滑りで入賞した6位の木村隼（八戸高専）と7位の佐々木隼（八光高専）の競り合い

積年のライバル 高め合い

木村と7位・佐々木（光星）

大舞台初陣で健闘

小学生の時から切磋琢磨（せつせつ）してきた木村（八戸高専）が6位、佐々木（八光高専）が7位と、少年男子500メートル入賞。共に初め出場する団体。一緒に力をつけて大舞台に向かい、結果残しが入は、表彰状を手に互いの健闘を交えた。

レース前3人で一緒に滑る選手がタイムを調べ、木村は「一気にテンションを上げて、予想通りの展開。木村で、佐々木も走りを発揮し、直線まで順位をキープ。トップの選手には大きく離されたものの、そのままゴールに滑り込んだ。互いに選手が入って、逃げ切ることができた」と木村、スタートで勢いよく滑ったという佐々木が、「どうにか懸れずに滑った。順位は木村君が上ったけど自分の力は満足のレースと、ほっとした表情を見せた。これまで、共に短距離選手として県大会や全国大会で競い合ってきたが、シングルトラックの同じレースで競うのは小学生以来。ずっと一緒に競ってきた、久しぶりに優勝ができて嬉しみにしていた」と振り返った。

入賞と初陣入りで初めての全国大会賞、1日2000メートルを滑り、今度ばかりは「表彰状」。

（八戸高専）



表彰式後、賞状手に笑顔を見せる左から、佐々木、木村、赤坂、竹中、大崎

格上に囲まれ奮闘 竹中



【スピードスケート少年男子1万円決勝】6位入賞の竹中裕馬（八戸西高）⑥と8位入賞の大崎公暉（八学光星高）

「最初にポイント（責任先頭）を確保して後半に体力を残した。自分の思い描いていた作戦通りになった」。少年男子1万円決勝の竹中（八戸西高）はロケットスタートを決め、1周目から先頭に。「相手は格上ばかり」（竹中）という状況だったが2周目も集団を引っ張り、早々にポイントを3回達成した。

「体は都道府県間の戦いという面も。隊列の前の方にいた大崎（八学光星高）が竹中のためにスペースを空け、スムーズに入れてくれたという。終盤は国際大会でも活躍する世代トップらが引っ張る厳しいレースに。先頭から1周遅れになれば、せっかく取ったポイントが無効になる」。竹中は離されながらも踏みとどまり、前回の国体から順位を二つ上げて6位に食い込んだ。

「上位選手とはレベルの差を感じた。自分はまだまだ力不足」と竹中。ただ全力を尽くした満足感から、レース後は晴れやかな表情をみせた。（工藤俊介）

を手にすると思顔をみせた。国体初出場だが、初戦を経験して「リラックスした状態で臨めた」。竹中（八戸西高）と連携してポイントを取りに行く作戦だったが、先頭集団のスピードについていけず「ポイントを稼ぐことができなかった」。トップとは大きく差が開いたものの、粘ってゴール。「きょうの課題を生かして持久力を高め、ベストタイムを出せるように練習したい」と飛躍を誓った。

粘った6位、7位、8位

○…「ポイント（責任先頭）よりもついていくのが精いっぱいだった。少年男子1万円決勝のレース後、反省を口にしていた大崎（八学光星高）だったが、8位の表彰状